



## ミャンマーのクーデターによる影響について(2/4現在)

北陸銀行 国際部  
バンコク駐在員事務所  
所長 岩本 潤一

## 1. はじめに

今般のミャンマー国軍によるクーデターについて、日本でも連日報道されているかと思えます。そこで、現地の方に街の様子をヒアリングした内容やミャンマー国内の状況について、お伝えいたします。

## 2. 在ヤンゴン日本人からヒアリング

### (1) 日本企業駐在員のお話

街はまったく平穏であり、人々も普通に通りを行き来しているとのこと。ただし、社員は在宅勤務を命じられており、しばらくは、この状況が続く様子です。ATMが動かないなどの報道もありますが、実際には普通に稼働しているようで、長蛇の列になっているところもあるようです。

### (2) 現地会社経営者のお話

新型コロナウイルスの新規感染者が1日50名以下と、先週までヤンゴン市内は落ち着きをみせていたことから、オフィスはテレワークも解除され、スタッフも通常勤務体制を再開していたそうです。そのような中、数日前から、軍と現政権の交渉決裂の噂が飛び交っていたので、今回のクーデター発生はある程度予想がついていたとのことでした。

### (3) 長期在住者のお話

一部、日系の新聞報道ではインターネットも遮断とありましたが、今のところ（2月1日日本時間16時現在）は使用できるよう。 「インターネットが遮断されると、ライフラインが絶たれることになり不安だ。日本政府がチャーター機などで救出する事態も考えないではない。」という声も聞かれました。

スーパーマーケットでは、人々が長蛇の列になったり、店側も入場制限を設けたりと、報道の通りの混雑ぶりだそうです。しかし、街の様子は通常通り落ち着いているようです。

### 3. ミャンマー進出企業への影響について

#### (1) 軍と民主主義の関係

スーチー氏の父親も、クーデターで政権を掌握し、英国から独立を果たしました。アジア諸国では、ある程度、軍事力を利用しなければ国がまとまらないという考え方もあります。ミャンマーだけではなく、民主勢力と軍が対立して衝突を起こすということも、他の国々も繰り返しています。タイも現在は軍事政権下ですが、これまで軍と民主勢力は衝突を繰り返し、経済活動とのバランスを保ちながら発展してきました。

#### (2) 日本企業の活動に支障はないのか

今回のミャンマー軍によるスーチー氏と大統領の拘束について、海外各国政府から非難のメッセージが寄せられています。ロヒンギャ問題で、以前にも非難されたように、これ以上民間企業に影響を及ぼすことは軍も望んでいないという意見もあります。実際に、現政権に移行される前には、ミャンマー投資ブームが起こりました。2015～2016年頃、私どもの事務所も毎月のように、ヤンゴン近郊のティラワ工業団地に日本からの視察のお客様を案内する業務に追われていました。ところが、2016年3月、スーチー氏の政党NLDが政権を握った後は、行政手続きが滞るなど経済活動が停滞した感がありました。

### 4. おわりに

上記の事実から、「ミャンマーは危ない」、「軍事政権下、非常事態宣言下で投資は不適だ」と判断するのは時期尚早です。もっとも、ミャンマー軍事政権の意図とは別に、国際社会が制裁を下すのが、進出している外国企業にとっては大きなリスクです。以前、米国が課したような金融制裁などがあると、企業活動にも支障が出てくるからです。タイ時間2月1日15時(日本時間17時)には、在タイ・ミャンマー大使館前で、ミャンマー軍の行動に抗議する多くのデモ隊が集まっているとの報道がありました。2月4日現在では、空港が一時閉鎖された後、まもなく再開されたほか、Facebookへのアクセスが遮断されました。日々変化していく現地情勢ではありますが、引き続き意深く情報収集に努めたいと思います。

以上

<ご注意> 文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。記載内容については、ご利用者の判断と責任のもと、ご利用くださいますようお願いいたします。

**ほくりく長城会**

**海外ビジネス情報**

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局  
〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F  
(株)人材情報センター内)  
TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565  
E-mail: info@chojo-hokugin.jp